

言葉磨き（教師の発問、共感、児童生徒のつなぎ発言等）は、児童生徒の思考を深めることに有効であったか。

○成果

- ・指示が具体的で簡潔であるので生徒が理解しやすい。
- ・三角ロジックを明確に意識させ、主張・根拠を書き込んで事実を見つける手がかりにしている。
- ・生徒が数学用語を的確に使って説明をし合っていた。
- ・発問が明確な上、容易に見つけられるものと、新しい学び（既習内容の組み合わせ）という挑戦が入っているところが良かった。
- ・個々に励まし声をかけ、全体に対しても「やってみよう」という気持ちを促す声かけがあった。場に応じて、適切に助言・評価ができていた。

●課題

- ・書き込んだシートの確認（手元に残したい場合もある。）
- ・一番考え、検討する内容を絞った発問とする。

改善のポイント

- ・タブレットを使う場面の精選。

ICTの活用は児童生徒の思考や理解を深めることに有効であったか。また、児童生徒の主体的に学ぼうとする意欲を高めたか。

○成果

- ・生徒の個人の状況がよくわかる。メリハリがある使い方をしていた。
- ・ヒントシートに書き込むのではなく、参考にしてノートに証明の文章を自分で書くところがよかった。苦手な生徒も集中して最後まで取り組める工夫がしてあった。
- ・個人思考・グループ協働・一斉学習など効果的にロイロノートを活用していた。
- ・タブレットで図形が視覚的にイメージしやすくなり、色をつけたり消したり簡単にできるので、教師の説明の場面でも、生徒が互いに自分の考えを伝え合う場面でも、とても有効だった。

●課題

- ・違うことに興味がいついていないかチェックすることが必要な場面も
- ・タブレットを使用する場面の精選。

改善のポイント

- ・使い慣れていないと、ICT機器の機能への興味を強く持ってしまうため、授業の内容に集中できない生徒もいる。状況に応じて、画面のロックも必要（タブレットのロックは現在ではできない）。
- ・タブレットの効果的な使い方をしている生徒がいたら、流れを止めて、全体に紹介すると全体の技術向上につながる。